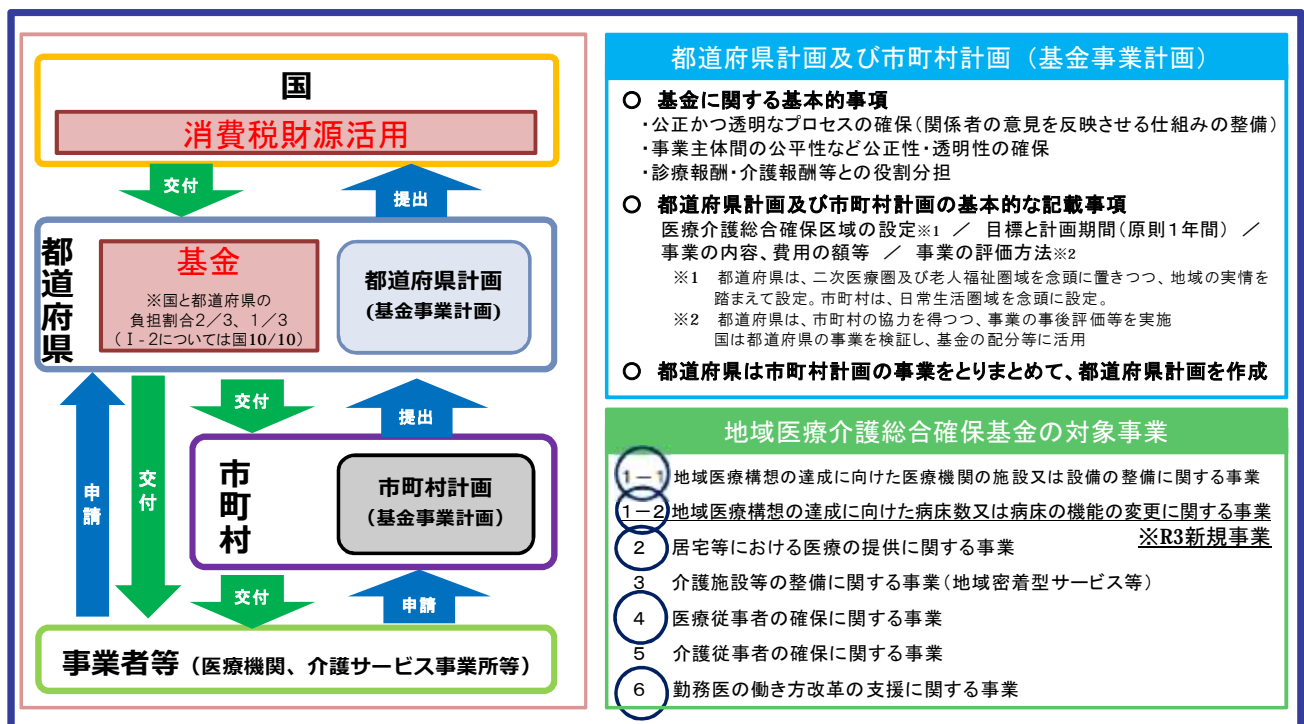


地域医療介護総合確保基金 (医療分) について

地域医療介護総合確保基金の仕組み



基金事業（医療分）の予算及びスケジュール

1. 令和3年度国予算

基金（医療分）総額1,744億円のうち、789億円を事業区分Ⅰ-1に重点化、区分Ⅱ・Ⅲ501億円、区分Ⅳ 258億円、新区分Ⅰ-2に195億円(国費10割)

2. 令和3年度府基金計画額 約59.9億円（令和2年度：約58.3億円）

区分Ⅰ-1(病床機能分化・連携)：26.3億（43.9%）病床機能分化・連携の基盤整備事業等
区分Ⅰ-2(病床機能再編支援事業)：1.0億（1.7%） 病床機能再編支援事業 ※R3新規
 区分Ⅱ（在宅医療の推進）：1.2億（2.0%）薬局の在宅医療推進事業等
 区分Ⅲ（医療従事者の確保）：22.8億（38.1%）病院内保育所運営費補助事業等
 区分Ⅳ（医師の働き方改革）：8.6億（14.3%）勤務医の労働時間短縮に向けた体制整備事業

3. スケジュール

- ・3月下旬 厚生労働省から配分方針提示、R3年度府基金計画の必要額（区分Ⅰ-2以外）を要望
- ・4月中旬～ 厚生労働省から各都道府県の要望内容について確認・調整
- ・8月上旬 区分Ⅰ-2の必要額を要望
- ・8月中旬 配分内示（区分Ⅰ-2以外）：要望額の99%配分（過年度基金活用により満額執行可能）
 【参考】平成30年度：9月、令和元年度：11月、令和2年度：9月
- ・10月～ 次年度事業予算要求、基金積立金予算要求
- ・12月 配分内示（区分Ⅰ-2）：要望どおり配分
- ・1月～ R3年度都道府県計画の提出、交付決定

2

府基金計画額及び要望額

■ 令和3年度基金計画額：約59.9億円（うち約49.5億円を要望）

(単位：百万円)

区分	項目	概要	主な事業	R2年度		R3年度	
				計画	要望	計画	要望
Ⅰ-Ⅰ	地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備	〇回復期や慢性期の機能を持つ病床を確保するため、病床の転換等を促進。 〇高度・専門化病院のさらなる特化を推進し、医療機関間の役割分担を図るとともに、地域の医療機関の連携を強化。	病床の機能分化・連携推進のための基盤整備事業（近代化含む）	1,966	481	1,189	229
			地域医療連携体制強化事業	105	105	111	111
			救急から回復期への病床機能分化促進事業	717	717	741	741
			医科歯科連携推進事業	59	59	59	59
			その他	669	669	530	450
項目計				3,516	2,031	2,630	1,590
Ⅰ-Ⅱ	地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更	〇病床削減や病院統合による病床廃止に取り組む際の財政支援。	病床機能再編支援事業【国費10/10】	-	-	104	104
			項目計	-	-	104	104
Ⅱ	居宅等における医療の提供	〇急性期から在宅までの一連の医療サービスを安定的に提供するため、地域医療提供体制を整備するとともに、在宅医療に携わる医療従事者を確保・育成。	薬局の在宅医療推進事業	6	6	8	8
			在宅療養者経口摂取支援チーム育成事業	4	4	3	3
			長期入院精神障がい者の退院促進事業【福祉部】	26	26	27	27
			医療型短期入所支援強化事業【福祉部】	44	44	34	34
			その他	2	2	46	42
項目計				82	82	118	114
Ⅲ	医療従事者の確保	〇医療人材の安定的な確保や資質の向上のため、看護師等の養成や病院内保育所の整備、専門領域やスキルに応じた研修を実施するとともに、医療従事者の勤務環境改善等を支援。	医療勤務環境改善支援センター運営事業	23	23	25	25
			病院内保育所運営費補助事業	378	378	396	396
			地域医療支援センター運営事業	71	71	62	62
			看護師等養成所運営費補助事業	922	922	873	873
			その他	833	833	920	920
項目計				2,227	2,227	2,276	2,276
Ⅳ	勤務医の働き方改革の支援	〇勤務医の労働時間の短縮に資する取組みを行う医療機関を支援。	勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業	(560)	(560)	862	862
			項目計	(560)	(560)	862	862
合計				5,825	4,340	5,990	4,946

3

意見聴取を活用した基金事業例(PDCA)

- ☞ 現在実施している基金事業について、着実に実績を積み上げながら、効果的に進めていくことが必要。
 - ☞ PDCA(改善)サイクルを回しながら、より良い事業とするため、ご意見をお伺いしているところ。
- ※基金事業のPDCAに当たり、各圏域から意見聴取することについて、大阪府医療計画や地域医療介護総合確保計画等の計画に位置付け。

圏域等からの主な意見

- ☞ 地域医療機関ICT連携整備事業について、府のフォロー、モニタリングをお願いしたい。
- ☞ 府内で、ICTを活用した複数の地域医療連携システムが相互利用できる仕組みの導入や、運用方法及び規約等に関する共通のひな形の作成の調整など、府が主体となって進めて頂きたい。

- ☞ 医療・介護関係従事者及び住民へのACPの周知、認識を高める活動が必要。
- ☞ コロナ禍だからこそ、ACPの普及啓発がさらに必要。
- ☞ 本人の意思を尊重することが今の医療では一番大事と言われている。色んな情報をお知らせして判断していただくということが重要。

新規

拡大

令和3年度基金事業例

事業1 地域医療機関連携体制構築支援事業

- ☞ 地域連携システムを導入した病院及び地域連携システムを活用したネットワークに参加している施設を対象に、ネットワークの活用状況や運用方法等について、**実態調査を実施**。
- ☞ 今後、府内外の事例や国の検討状況を踏まえつつ、調査結果をとりまとめ、既存ネットワークの利用促進、ネットワークとしてカバーする圏域や共有する医療情報の種類等の在り方を検討する。

事業2 「人生会議」相談対応支援事業

- ☞ 『看護職のためのACP支援マニュアル』を活用し、病院・診療所・介護施設などの勤務先はもとより、地域で指導的な役割を果たす専門人材を育成するための研修を支援。
- ☞ 人生会議（ACPの愛称）の普及啓発を図るため、退院支援における事例等を参考に、**アニメーション動画を企画・制作**。

～その他 新規・継続事業～

関係団体等からの提案（検討会議での意見等）及び効果検証により適宜構築・改善

- ◆ 新規事業 障がい児等療育支援事業（医療的ケア児）
- ◆ 継続事業 地域医療機関ICT連携整備事業、訪問看護ネットワーク事業、医科歯科連携推進事業 等

4

事業1 地域連携システムを活用したネットワークに関する実態調査(中間報告)

調査概要

大阪府の補助事業を利用して地域連携システムを導入した病院（以下「運営病院」という。）及び地域連携システムを活用したネットワークに参加している医療施設（以下「参加施設」という。）に対してアンケート方式の調査を実施。また、運営病院の一部に対しヒアリング調査を実施。

	発送数	回収数	回収率
(1) 運営病院	42	42	100.0%
(2) 参加施設	1001	334	33.4%
合計	1043	376	36.0%

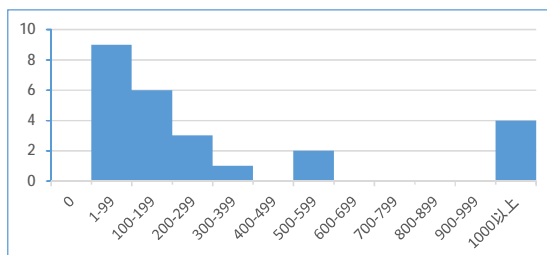
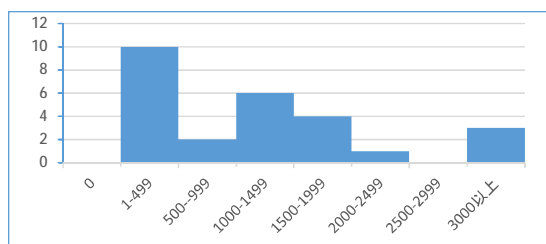
【大阪府の補助事業】

地域の拠点となる病院に地域連携システム（電子カルテ情報、画像情報を提供するシステム）の導入費の一部を補助



結果概要

- **ネットワーク数**：地域連携システムを活用したネットワークは、府内に26存在。
- **毎月コンスタントに患者が増えているか**：73%のネットワークが「はい」と回答。
- **毎月コンスタントにアクセスがあるか**：86%のネットワークが「はい」と回答。
- **ネットワーク別の登録患者数**：最小4人～最大12,000人と差が大きい、500人未満のネットワークが多い。
- **ネットワーク別の月間アクセス数**：最小4回～最大15,000回と差が大きい、100回未満のネットワークが最も多い。

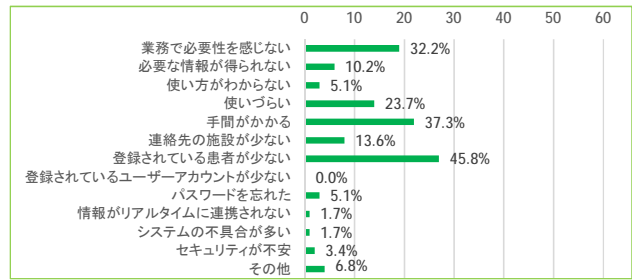


5

- 参加施設がどれくらいの頻度で利用しているか：
参加施設では日常的（ほぼ毎日）と時々（週1回）の利用が
あわせて47%であった。



- 参加施設が「月1回程度の利用」、
「全く利用していない」と回答した理由（複数回答）：



- 導入されている地域連携システムの満足度（5点満点）：

運用病院は、比較的満足（4点、5点）が12%で、比較的不満（1点、2点）が44%で、平均満足度は2.6点である。
参加施設は、比較的満足（4点、5点）が25%で、比較的不満（1点、2点）が32%で、平均満足度は2.8点である。

【満足度が高いケースの意見】

- ・ 参加施設、登録患者ともに増加しており、連携に活用できている
- ・ 他施設に入院しているときの患者さんの状況がよくわかる
- ・ 患者のカルテが閲覧できることにより、適切な診療を行うことができている など

【満足度が低いケースの意見】

- <運用病院> 初期費用・維持費用が高い。費用対効果が得られない
労力がかかる割にインセンティブが乏しい など
- <参加施設> 患者説明や同意取得、接続等に手間がかかる
診療情報提供書で間に合っている など

- 地域連携システムを継続して利用する意向：

運用病院、参加施設ともに、「今後も継続して利用したい（76%、82%）」が多く、継続利用の意向割合は高い。
一方、「継続して利用するか迷っている（12%、10%）」、「やめようと思っている（10%、7%）」と回答した施設が存在。

- 国や大阪府への要望：

運用病院、参加施設ともに、国や大阪府に対して「統一した基盤やルールづくり（57%、57%）」を望んでいる割合が高い。

【参考】 国において、全国的な医療ネットワークの基盤のあり方及び技術的な要件について、検討が行われている。

まとめ

「登録されている患者が少ない」、「手間がかかる」等の理由から、参加施設の利用が低調なネットワークが存在しているが、運用病院、参加施設ともに継続利用の意向割合が高く、事業継続への期待は高い。

今後、府内外の事例や国の検討状況を踏まえつつ、調査結果をとりまとめ、既存ネットワークの利用促進、ネットワークとしてカバーする圏域や共有する医療情報の種類等の在り方を検討する。

6

事業2

アニメーション動画 人生会議 ～よりよく生きるために～

大阪府では、大阪府看護協会の監修の下、人生会議啓発のためのアニメーション動画を制作しました。



自分の気持ちを
言葉にすることで



皆が相談に乗っ
てくれてサポート
してくれる

自分の想いを
伝えるって大
切なんだな



(動画URL)

<https://youtu.be/XqGcR4FZVk>

【連絡先】

保健医療企画課在宅医療推進グループ

電話：06-6944-6025（直通）

E-mail：zaitakuiryu@gbox.pref.osaka.lg.jp